2019年度 国際姉妹都市交流事業
米国マールボロウ市の訪日団の受入と生徒派遣

平成10年より始まりましたマールボロウ市立ウィットコム・スクール生徒の受入事業も、今回で20回目を迎えました。

これまで、149人のマールボロウ生徒が来日し、137組の家庭が受入れを経験した当事業へ、今年度は新たに、12人の生徒、12組の家庭がご協力くださいました。

10月12日から、帰国する10月21日までの10日間、それぞれの家庭でホームステイを行いました。一緒に学校へ通ったり、市内各所を見学して、日本文化に親しみながら、お互いの文化や生活について学んでいただけたことと思います。

平成16年の受入家庭経験者の皆様により結成されました「あきる野ホストファミリークラブ」の皆様には、マールボロウ生徒を受入れる上での心構えや生活等についてアドバイスをいただき、円滑な交流のために多大なご協力をいただいております。

また、今年度から、「あきる野国際友好クラブ」の皆様にも、英会話レッスンや各種式典へのご協力をいただき、より一層、充実した事業となりました。

マールボロウ生徒と、受入家庭の皆様が、文化や言語の壁を乗り越えて、素晴らしい体験をされましたことを喜ぶと同時に、今回の経験を糧に、より一層、国際交流に興味を持っていただけるよう、願っております。

マールボロウ市への生徒派遣

教育委員会では、国際姉妹都市であるマールボロウ市（米国マサチューセッツ州）との教育交流を実施しており、10月30日から11月7日まで、派遣団（市立中学校在籍生徒・8人）が現地を訪問しました。

訪問中は、ホームステイをしながらケーン小学校やマールボロウ警察署などを訪れました。さらに、マールボロウ市役所での歓迎会では温かい歓迎を受けることができました。

また、当事業の経験者を中心として、平成6年に「あきる野市国際化推進青年の会」も発足し、中学生の交流に留まらず、広がりを見せています。

あきる野市国際化推進青年の会 代表 来住野実咲さん

当会では、毎年、事前研修で、中学生に向けて体験談の披露や英会話レッスン等を行っています。さらに現地では、同行した会員が交流の橋渡し役を担っています。また、交流事業のPRのため、「M&A通信」（マールボロウ&あきる野通信）を作成・配布しています。

昨年度は、国際姉妹都市提携20周年を記念して、パネル展の開催や、記念ビデオの作成を行いました。

勉強会も積極的に行い、留学や、JICAの活動について、各自の経験を共有することで、国際的な知識や視野の拡大に努めています。会員たちは派遣事業での「言葉が通じなくても心は通じ合う。」という経験をきっかけに、進路の選択肢を広げ、留学や海外での仕事に挑戦したり、英語を活かした仕事や地元あきる野市に貢献する仕事に就いたりしています。

今後もこの事業が中学生の国際的視野を広げる機会、そして、未来に繋がる大きな一歩になることを期待しています。

五日市小学校で南極教室を開催

国立極地研究所（東京都立川市）が主催する「南極教室」が9月26日、あきる野市立五日市小学校で開催されました。

この教室は、南極で観測を行っている南極地域観測隊員と日本国内の児童・生徒が衛星回線を通じてリアルタイムで交信します。地球環境や歴史、さらには宇宙の謎にまで迫る南極観測の現在を知ってもらい、南極を通じて地球や宇宙のことを考えてもらうことを目的とした取組です。2004年から始まり、2019年度は全国17校での実施を予定しています。

また、実施校については、南極地域観測隊員とゆかりのある学校で開催されています。

体育館のスクリーンには衛星回線で南極の昭和基地の様子が映し出され、児童たちは第60次南極地域観測隊である堤　雅基越冬隊長観測隊長に南極の生活や自然環境について熱心に質問していました。南極に恐竜は生きていたのかという質問では、地球の長い歴史と自然のすごさを感じ、児童たちは大変な驚きぶりをみせていました。

また、堤雅基越冬隊長からは「年に1回、隊員31人分の1年間の食料にあたる37トン越えの食料物資を運び込みます」といった南極の暮らしの紹介や「天気を見る人やオーロラや空気や海、氷を観測する人もいます」というの基地の仕事についての紹介や、快適に過ごせる基地内部の説明もありました。児童たちは氷点下25度の寒さを利用した実験から南極の厳しい自然環境に驚きながらも、基地での生活や仕事について楽しく学びました。

図書館通信 ひじろばた

「ひじろばた」とは、いろりの周りという意味のあきる野市の方言です。かつてこの地の人たちがひじろを囲んで情報交換をしていたように、あきる野市の情報を紹介します。

《おすすめ本の紹介》

〜ハァ〜清流ひとすじ　西から東　あゆの秋川　みずゆたか

令和元年の夏、市内の盆踊りで流れていた『あきる野音頭』。あきる野市にはこのあきる野音頭を始め、地域に関連した多くの音楽や文学作品があります。

これら地域資料を保存していくことは図書館の重要な役目ですが、たくさんの人にその存在とあきる野市の歴史を知っていただき、次の世代へ継承していくことも大切だと考えています。

「五日市憲法草案」という言葉を知っている方は多いと思いますが、それが東京都の指定文化財であること、また一緒に発見された古文書が約7500点も中央図書館に保存されていること、さらには、古文書修復はデンマーク発祥の技術が使われていることに驚かれる方は少なくないでしょう。「五日市憲法草案」について知りたいけど、歴史は苦手と思っている方におすすめしたいのが『五日市憲法』（岩波新書新赤版）』新井勝紘／著です。秋の夜長、当時に思いを馳せて時間旅行に出かけませんか？

そして、旅といったら鉄道ということで、おすすめしたいのが、『がたたんたん』福田岩緒／絵。車窓に広がる本市の風景と五日市線に乗っている人たちの優しさに、思わずほっこりしてしまいます。

この2冊は、改めて、この市に住んでいる誇りと喜びを実感させてくれることでしょう。

○問合せ　中央図書館（☎558・1108）、東部図書館エル（☎550・5959）、五日市図書館（☎595・0236）

『五日市憲法』

新井勝紘／著

岩波書店（岩波新書赤版）

発見から半世紀。忘れ去られた歴史を紡ぎ、先人たちの思いを掘り起こす。五日市憲法草案の入門書。

『がたたんたん』

福田岩緒／絵
やすいすえこ／作

ひさかたチャイルド社

市内在住の絵本作家、福田岩緒さんの作品。車窓に広がる五日市線の風景もお楽しみください。